

議 事 録

会 議 名	第 1 回 あんばい ええまち かわにし創生総合戦略推進会議		
事 務 局 (担当課)	行政経営室		
開 催 日 時	平成 27 年 7 月 28 日(火) 18 時 30 分から 20 時 30 分		
開 催 場 所	川西市役所 4 階 庁議室		
出 席 者	委 員	新川達郎、藤本真里、国津元司、福元達也、伊藤繁治、内海陽平、山田秀一、橋本英仁、大澤茂男、池田千恵子、加門文男、永瀬雅一、荻野毅、志賀俊彦、田中まこ、吉田誠、山上豊、小田博則、菅原康雄副市長、本荘重弘副市長	
	事務局	松木総合政策部長、船曳行政経営室長、志波行政経営室主幹 小野行政経営室副主幹、稲治主査、山田主事	
傍聴の可否	可	傍聴者数	3人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会 議 次 第	1 開会 2 委嘱状交付 3 副市長あいさつ 4 委員紹介 5 会長及び副会長の選任について 6 議事 (仮称) あんばい ええまち かわにし創生総合戦略の策定について (1) 川西市人口ビジョン (案) について (2) あんばい ええまち かわにし創生総合戦略 (骨子案) について 7 その他 8 閉会		

発言者	発言内容等
事務局	<p>ご案内しておりました時間がまいりましたので、「第1回あんばい ええまち かわにし創生総合戦略推進会議」を開会させていただきます。</p> <p>皆様におかれましては、本日はご多忙にもかかわらず、お集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>私は、本日の司会をさせていただきます、川西市総合政策部行政経営室、主幹の志波でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>なお、当推進会議は「川西市参画と協働のまちづくり推進条例」第10条第3項の規定に基づきまして、公開となりますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、はじめに、「あんばい ええまち かわにし創生総合戦略推進会議委員」の委嘱状の交付について、ご説明させていただきます。本来であれば、大塩市長より委嘱状を交付させていただくべきところではございますが、会議時間の関係上、委嘱状を机の上へ配付させていただいております。委員の皆様方には誠に失礼とは存じますが、よろしくお願ひ申しあげます。</p> <p>続きまして、本荘副市長より、皆様へご挨拶を申しあげます。</p>
副市長	<p>あらためまして、川西市副市長の本荘でございます。</p> <p>皆様方には委員のご就任についてお願ひしましたところ快諾を賜りまして、ありがとうございます。</p> <p>今日は第1回目の会議という事で非常にお集まりにくい時間帯にもかかわらず全員出席という事で聞いております。誠にありがとうございます。</p> <p>委員さんは既にご案内のとおりかと思ひますけれども、「あんばい ええまち かわにし」ということで地方版の総合戦略を創っていこうという事なのですが、国におきましては、既にご案内の通り、昨年末に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」ということで閣議決定をされたということで、それに基づいてそれぞれの自治体の中で地方版の総合戦略を作っていこうという流れになっております。</p> <p>日本全国人口が既に2008年の1億2800万というふうに記憶しているのですが、それをピークに人口減少社会に入っております。</p> <p>現在2015年度直近のデータでは1億2700万ということでございますので、この7年間で100万人減少している。1年を単純に見ますと13、4万人減っているということです。別の会議でも申し上げたのですが、例えばお隣の池田市さんレベルの都市が1年に1個ずつは無くなっていっている、こういうふうに例えるとその深刻さがリアルティを持ったものになるのかなと思ひます。</p> <p>そしてまた国のほうの社人研の推計ですが2060年で今のままいきますと8600万人程度になるのではないかと、更に50年先の2110年には4300万人ということで今の2分の1以下になるのではないかとという話しです。そういうことで危機感を持った国は、2060年でなんとか1億をキープしていこうということでそれぞれ地方にはっばをかけてきているという状況になります。</p> <p>本市の状況は現在16万人前後で推移してきております。</p> <p>後で事務局の方から説明があると思ひますが、このままいきますと、同じく2060年の時点では9万6000人程度になるのではないかとということです。</p> <p>それを今回、強気といひますか、11万程度にしようということです、そこをなんとかキープをしながら今後戦略を立てていきたいという目標設定をしていこうということです。</p>

発言者	発言内容等
事務局	<p>ただ、かねてから審議会からご指摘を頂いておりますが、第5次の川西の総合計画というものを作っております。これは平成25年度から34年度の10年をスパンとする市の総合計画ですが、既にそれを作る時から、人口減少社会というものを想定しておりますし、またそういう中における地域の活性化についても、総合計画の中に盛り込んだつもりでおります。国がやられていることも今更、ということでもあります。</p> <p>ただ、魅力的なのはやはり交付金を充当できるということでもありますので、頭を切り替えて新しい発想のもとで私達、川西市のオリジナルの戦略を作ることによって有効なお金の活用をしていきたいし、「まち しごと」というわけでもありますので、そこに具体的な地域づくり、あるいは雇用等々を川西市におけるトータルな街づくりの起爆剤にしていきたい、積極的な想いで臨んでいきたいというのが市の想いでございます。</p> <p>先生方におかれましては、それこそ多方面からお集まりをいただいております。それぞれの立場からご助言を頂くと共に、私達として何が出来るんだろうという具体的な役割なんかを踏まえながらご議論を進めて頂くと、単に客観的なご意見だけではなくて、これから一緒にまちづくりをしていただくパートナー・主体として地域づくりにお世話になればと思っております。</p> <p>ただ時間的に非常に短いなかでのご議論ということになっております。非常にタイトなスケジュールのなかでございしますが、限られた時間の中でぜひ闊達なご議論をいただくとことを切にお願いを申し上げます、簡単ではございますけれども挨拶をさせていただきます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>では次に、委員のご紹介をさせていただきたいと存じますが、時間の関係もございしますので、お配りしております委員名簿、座席表をもちまして、委員の皆様のご紹介に代えさせていただきます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>では、引き続きまして、「会長及び副会長の選任について」について、事務局よりご説明をさせていただきます。</p> <p>お手元に配付しております「あんばい ええまち かわにし創生総合戦略推進会議規則」の第4条の規定に基づき、当会議の会長及び副会長を選任する必要がございます。</p> <p>つきましては、「会長及び副会長の選任」についてお諮りしたいと存じます。</p> <p>同規則第4条では、「会長及び副会長は、委員の互選によりこれを定める。」と規定しておりますが、選出にあたりまして、ご意見をお伺いしたいと存じます。</p> <p>本日が初めての顔合わせでもございしますので、なかなか難しいとは思いますが、ご意見等ございませんでしょうか。</p> <p>特にご意見もなく、「事務局に一任」との声がございましたので、会長及び副会長につきましては、事務局から指名させていただき、そのうえでご承認を得たいと思っておりますがよろしいでしょうか。</p> <p>〈異議なし〉</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>では、事務局の方からご提案させていただきたいと思っております。</p> <p>それでは、会長には新川達郎委員、また、副会長には藤本真里委員をご提案さ</p>

発言者	発言内容等
	<p>せていただきたいと思いますが、ご承認いただけますでしょうか。</p> <p>〈異議なし〉</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、委員の皆様にご承認いただきましたので、会長を新川達郎委員に、副会長を藤本真里委員にお引き受けいただくことといたします。</p> <p>新川委員、藤本委員、恐れ入りますが、お席の移動をお願いいたします。</p> <p>それでは、会長、副会長より一言ずつご挨拶を頂戴したいと存じます。</p> <p>恐れ入りますが、新川会長からよろしくをお願いいたします。</p>
会長	<p>川西市総合計画策定の際にも参画しましたが、総合計画という長期的ビジョンのもと、持続可能なまちづくりを実現するために、まち・ひと・しごとに焦点をあてて推進する戦略として、「あんばい ええまち かわにし創生総合戦略」を皆様と一緒に考えていきたいと考えています。どうぞよろしくようお願い申し上げます。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、藤本副会長よろしくをお願いいたします。</p>
副会長	<p>川西市の黒川の里山を、日本一の里山として博物館の授業の中で扱っています。また、川西市におけるグリーンセンターの指定管理の委員としても携わっています。川西らしい、よりよい戦略にしていきたいと思っていますので、よろしくをお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、議事へ移りたいと思います。</p> <p>はじめに、当推進会議規則第2条に基づき、菅原副市長の方より、推進会議に対し、諮問をさせていただきます。</p> <p>それでは、菅原副市長、新川会長よろしくをお願いいたします。</p>
事務局	<p>〈委嘱状交付〉</p> <p>それでは、ここからの進行は会長をお願いいたします。</p> <p>新川会長、どうぞよろしくをお願いいたします。</p>
会長	<p>ただいま、当推進会議規則に基づき、この会に対して市から諮問を受けました。委員の皆様のご活発なご意見を集約して、あんばい ええまち かわにしの創生に向け、総合戦略の答申をまとめてまいりたいと思います。</p> <p>なお、本日の会は会議時間を概ね2時間程度とし、午後8時半を閉会の時刻として進めてまいりたいと思います。何卒ご理解・ご協力をお願いいたします。</p> <p>それでは、本日の議事に入る前に、「会議公開及び会議の傍聴」についてご確認いただく必要があります。</p> <p>お手元に配付しております「あんばい ええまち かわにし創生総合戦略推進会</p>

発言者	発言内容等
事務局	<p>議公開運用要綱(案)」及び「あんばい ええまち かわにし創生総合戦略推進会議の会議公開に係る傍聴要領(案)」について、事務局より説明をお願いいたします。</p> <p>それでは、ご説明申しあげます。</p> <p>お手元の資料、「あんばい ええまち かわにし創生総合戦略推進会議公開運用要綱(案)」をご覧ください。</p> <p>当推進会議は、「川西市参画と協働のまちづくり推進条例」第 10 条に規定する付属機関等に該当し、市は付属機関等の会議を公開することと規定されております。</p> <p>つきましては、法令等に規定があるものを除き、会議の公開が義務づけられておりますことから、「あんばい ええまち かわにし創生総合戦略推進会議公開運用要綱(案)」におきまして、付属機関等の設置状況をはじめ、会議の開催日時等を公開する旨について、規定しております。</p> <p>また、会議録については、発言要旨を事務局でまとめ、各委員の発言については名前を伏せることとし、また、その承認については、会長の承認で行うことを想定しております。</p> <p>続きまして、傍聴要領(案)についてでございます。お手元の資料、「あんばい ええまち かわにし創生総合戦略推進会議の会議公開に係る傍聴要領(案)」をご覧ください。</p> <p>ここでは会議に係る傍聴手続きをはじめ、傍聴に関する必要な事項を規定しております。</p> <p>以上、ざっばくではございますが、会議公開、会議の傍聴に関する説明とさせていただきます。恐れ入りますが、詳しくはお手元の資料をご清覧くださいますようお願いいたします。</p>
会長	<p>ただいまの説明について、ご質問等ございませんでしょうか。</p> <p>〈意見なし〉</p>
会長	<p>それでは、お諮りいたします。</p> <p>会議の公開について、要綱及び要領を定めのとおり扱うこととしてよろしいでしょうか。</p> <p>〈異議なし〉</p> <p>ありがとうございました。異議の声がございませんでしたので、今後、この要綱・要領に沿った運用をお願いし、事務局におかれましては、事務処理等についてよろしくをお願いいたします。</p> <p>それでは、本日の議事に移らせていただきます。まず、「川西市の人口ビジョンの概要について」、事務局よりご説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、川西市の人口ビジョンの概要について、ご説明させていただきますが、その前に、今回川西版総合戦略を策定するに当たりまして、本市の基本的な考え方についてまとめておりますので、「あんばい ええまち かわにし創生総合戦略」の策定における基本的な考え方と題しましたA4版の資料をご覧ください。</p>

発言者	発言内容等
	<p>1. 国における総合戦略の策定、 2. 地方版総合戦略につきましては、国の動きや地方版総合戦略の策定の背景等について記述しております。</p> <p>そして、3 として、川西市における総合戦略の策定についての基本的な考え方をまとめさせていただいておりますので、読み上げさせていただきます。</p> <p>本市は、大阪、神戸などの大都市近郊のベッドタウンとして、民間の大規模団地の開発によって急速に発展してきたという都市の特性から、県下の他市町よりも急速に高齢化が進行するという状況があります。</p> <p>また、昭和 50 年代初頭から積極的にコミュニティ施策を進めてきた結果、ほぼ全地域の概ね小学校区において、コミュニティ推進協議会が結成され、それぞれの地域において、個性的で自立的な地域づくりが行われているという強みがあります。</p> <p>こうした背景を踏まえ、第 5 次総合計画においては、住民の幸せをまちづくりの目標と定め、いかに住民が幸福を感じ、住みやすいまち、住み続けたいまちとして実感できるかを念頭において、施策の重点化を進めており、とりわけ、住民自治を基盤とするまちづくりを具現化するため、地域に一定の権限と財源を移譲する地域分権制度を創設しました。</p> <p>さらに、戦略的な情報発信を行うべく専任の組織を設置し、ふるさと川西の魅力の創造と内外へのアピールを積極的に展開しているところであります。</p> <p>「あんばい ええまち かわにし創生総合戦略」は、こうした本市の歴史的な背景や優れた地域力など本市の特性を踏まえて策定するとともに、市民や事業者、各種団体など、まちづくりの様々な主体が連携・協働して、持続的な川西を創造するための指針と位置付けるものであります。</p> <p>以上の基本的な考え方に立って、総合戦略の策定を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>川西市の人口ビジョンの概要について、ご説明させていただきます。お手元A3版の資料をご覧ください。</p> <p>人口ビジョンは、まち・ひと・しごと創生法の趣旨を受け、内閣府地方創生推進室が示します内容に則ったり、人口ビジョンの全体構成としまして、「川西市のこれまでの人口推移及び市民生活への影響と課題」として人口の現状分析を行っており、次に「基本姿勢・将来展望」として人口分析を踏まえての人口の将来展望ということで構成しております。</p> <p>まず、川西市のこれまでの人口推移であります。</p> <p>総人口の推移としましては、国勢調査ベースで昭和 35 年から平成 22 年までの推移を示しておりますが、昭和 40 年代からの大規模住宅団地の開発により、人口が急増したこと、平成 17 年を境に人口が減少に転じ、高齢化率が 20%を超える状況となってきたことが、特徴として伺えるものであります。</p> <p>次に、人口動態の推移ですが、その特徴としましては、社会動態は、年度によりばらつきはあるものの、転出超過の傾向にあること、また自然動態は、近年減少傾向にあること、そして年間増減をみても、減少傾向にあることが伺え、人口減少への影響が浮き彫りとなっている状況であります。</p> <p>次に、合計特殊出生率の推移ですが、本市ベースでは近年微増傾向にはありませんが、国・県と比較しますと低くなっているのが現状であります。</p>

発言者	発言内容等
	<p>次の項目、市民生活への影響と課題であります。</p> <p>人口減少、少子高齢化が本市市民生活に与える影響としまして、大きく4点を挙げております。</p> <p>まず1点目が、高齢化の急速な進展による、医療需要・介護需要の増大・多様化、見守りの必要な要援護者の増加、交通弱者の増加、</p> <p>2点目が、更なる少子化の進展による、未婚・晩婚者の増加、子育てへの負担感による出生数の低下。</p> <p>3点目が、生産年齢人口の減少による、市税収入の減少による行政サービスへの影響。</p> <p>4点目が、人口構造変化に伴う地域力の低下による、幅広い市民公益活動の必要性の増加であります。</p> <p>そして、これら影響に対する対応課題として、少子化の歯止めとして、子どもを産み育てやすい環境づくり、まちの生産性の向上として、幅広い世代の就労希望の実現、高齢化への対応として、健康長寿の実現、まちの構造の転換として、地域分権によるまちづくりの推進、大規模住宅団地の再生がそれぞれ必要になってくるものと考えております。</p> <p>次に、人口推計ですが、国が示しております2060年を想定した人口推計として、凡例にしたがって推計したものをグラフで示しております。</p> <p>まず、①は本市総合計画で推計したもので、これは住民基本台帳をベースとした推計で、計画期間満了の平成32年までの推計となっております。</p> <p>次に、②は社人研推計に準拠して推計したのですが、主に平成17年から平成22年までの人口動向を勘案したもので、2060年には96,554人となっております。</p> <p>③は、②をベースとしまして、市の施策により子育て支援等を行い、年間出生数1,000人を維持すると仮定し、推計したもので、2060年には107,246人となっております。</p> <p>④は、③をベースとしまして、市の施策により移住・転入者支援等を行い、人口移動が均衡すると仮定し、推計したもので、2060年には110,716人となっております。</p> <p>最後に、基本姿勢・将来展望であります。</p> <p>市民生活への影響と課題及び人口推計の状況を踏まえ、今後のめざすべき将来の方向として、その基本姿勢及び2060年を対象期間として人口の将来展望を記述しております。</p> <p>まず基本姿勢としましては、人口減少・超高齢社会に着実に対応し、持続可能なまちづくりを実現する。とし、将来展望として、子育て支援等により今後も年間出生数1,000人を維持するとともに、移住転入支援等により、人口移動の均衡を図り、総合戦略の計画期間である5か年の期間中151,000人を維持し、長期的(H72)には110,000人を確保することとしております。</p> <p>以上で、人口ビジョンの概要についてのご説明を終わらせていただきます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまの説明について、ご意見を伺いたと思います。</p> <p>ご意見はございませんでしょうか。</p>
委員	<p>人口減少問題については各市町村で共通の課題を抱えています。いくつかの自治</p>

発言者	発言内容等
	<p>体でお話をうかがう機会がありましたが、どこも転入者を増やすことをめざしていません。阪神間の他の自治体ではなく、川西市で定住することを選んでもらうために、現在市で取り組んでいることについて紹介していただけますでしょうか。</p>
事務局	<p>現在、総合計画の中に位置付けて取り組んでいることとして、親元近居者への助成の取組や、コミュニティバスの運行等団地再生への取組、カフェ等の地域住民の集う場の創出等地域での取組への支援を行っています。また、川西市の魅力発信に向けたシティプロモーションに取り組んでおり、「幸福沿線」や「あんばい ええまち」としてPRしています。</p>
委員	<p>合計特殊出生率の推移について、川西市と兵庫県を比べると大きな差がありますが、その原因を教えてください。</p>
会長	<p>大都市近郊のベッドタウンは全国共通で合計特殊出生率が低くなっていますが、事務局としては、この原因をどのようにとらえられていますか。</p>
事務局	<p>現状では直接的な原因の分析までは至っていませんが、人口構成の中で、生産人口があまり入ってきていない影響もあるかと考えています。</p>
本荘副市長	<p>団地開発等で一時に人口が増加し、その後の転入傾向がないこと、結婚・出産前に転出者が多い傾向があることなどが関与しているのではないかと考えられます。</p> <p>また、合計特殊出生率については、市町単位ではなく広域や国全体で議論すべきだという考え方もあります。</p>
会長	<p>一般的には川西のように特定の時期に団地開発等で人口が増え、しかもその後大きな人口の伸びがなかったところでは、子どもを産む女性の数がどんどんと減少し、合計特殊出生率も低下するという傾向があります。</p> <p>また、大都市周辺の住宅開発では、社会文化的な要因と合わせて、余計に低下の傾向が見られやすいと一般的には言われています。</p> <p>しかし、本市の場合どこまで該当するかはもう少し検討が必要です。また転出超過となっていますが、もし国勢調査の結果をまとめておられるのであれば、多く流出している市町村と多く流入して来ている市町村が分かれば教えてください。</p>
事務局	<p>現在、国勢調査等のデータを精査できていません。</p>
本荘副市長	<p>実感としては、大阪府への転出が多いと感じています。</p>
委員	<p>大まかに言えば、2060年で人口が96,000人と推計されているところを、歯止めを入れて110,000人を維持することを目標にするということで良いのでしょうか。その前提でいくと、平成72年の出生率が2.00になると推計されているが、どのようなことでしょうか。</p>

発言者	発言内容等
事務局	<p>当数値は、平成 32 年における年間出生数を 1,000 人維持すると仮定した場合の推計値です。現在、市では「子ども子育て計画」という計画があり、平成 27 年から平成 31 年の出生推計というものがあります。その出生推計をベースに、仮定として 1,000 人を概ね維持できると考えた数字を入れて計算した結果がこちらの数字になります。また、その数字を逆算することで結果として、平成 42 年では 1.51、平成 72 年では 2.00 という数字になりました。</p>
委員	<p>出生数が横ばいで推移するならば、転入転出に向けた取り組みを重点的に行わなければ、人口減少は抑制されないということでしょうか。</p>
事務局	<p>その通りです。</p>
委員	<p>全国において、大都市圏への流出に歯止めをかけられない自治体が多いと思うが、このような中で、画期的な取り組みにより人口増につながった自治体の事例があれば、ご提示いただきたいです。</p>
事務局	<p>地方の部分と都市部のところでは状況が異なることから、地方での成功事例というものもあるが、本市での実情に即した分析が必要と考えており、川西市の状況に即した分析までには至っていません。</p>
委員	<p>転入者を増やすために思いつく施策としては、企業誘致や教育機関の誘致などが考えられます。川西市として、そういった起爆剤のようなことを目玉として考えるという方向性はあるのでしょうか。私は群馬県出身ですが、群馬県太田市では工場に外国人の労働者を沢山入れることで人口が増えています。そのような方向性で人口を維持あるいは増やしていくのはどうかと少し思いました。川西市が考えている方向性があれば教えていただきたいです。</p>
事務局	<p>最終的には、委員よりご意見をいただきながら総合戦略を立てていきたいと考えています。今ご指摘いただいた、企業誘致や教育機関の誘致は市としても非常に興味を持っている部分ですが、企業誘致については堅実な現状分析の上で行う必要があると考えています。ただ教育関係については、暮らしにおいて非常に大きな要素を占めるため、総合戦略の中でも大きな位置づけになると考えています。</p>
会長	<p>学校については、どこまで直接的に効果があるかは分かりませんが、大都市圏の中での都市間の比較優位という点では一般的に、評価が高い学校があるところには比較的人が集まりやすいという傾向が見られます。埼玉県本庄市や神奈川県藤沢市では、評価の高い学校が人を呼び込んでいる事例として聞いたことがあります。また、ご参考に見ていただければと思います。</p>
委員	<p>世界中の中で人口が減り続けて国が栄えたという例はないと思います。このままいくと 10 年 20 年後にはどんどん人口が減っていき、経済が駄目になり税収も減っていきます。そうすると予算が全く取れない状況の中で、様々な行政サービスが維持できるのか疑問を感じます。地方都市間で話し合いをするもの必要だと思いますが、政府はドイツやアメリカのように外国人労働者を入れて人口減少に歯止めをかけることが</p>

発言者	発言内容等
会長	<p>必要ではないでしょうか。地方都市で転入を増やそうとしても、基本的に国の予算で取り組むことはどこも似たような取り組みになってしまうと思います。「いいまち」や「住みやすいまち」とうたいすぎると何もない絵に描いた餅になり、それだけで終わってしまうのではないのでしょうか。これだという取り組みを決めて、予算を集中させていく必要があると思います。</p> <p>現状では人口動向、将来推計の分析が不足しています。合計特殊出生率の推移についても1.29を2.00に上げるというのは常識的には考えにくいので精査する必要があります。また実際の市民生活への影響ということであれば、高齢化が進むが、高齢者の数自体は40年後にはそれほど増えず、むしろ高齢者も減ってきます。また子どもの数は当然減ってきます。人口ビジョンは大きなトレンドを押さえれば良いですが、同時にその背景や影響についてももう少しお示しいただければありがたいと思います。</p>
会長	<p>では、次に「あんばい ええまち かわにし創生総合戦略(骨子案)について」について、事務局よりご説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、あんばい ええまち かわにし創生総合戦略の骨子(案)について、ご説明させていただきます。お手元A3版資料をご覧ください。</p> <p>まず、上段部分ですが、国の総合戦略の概要及び兵庫県の総合戦略の骨子案を参考に掲載させていただいております。</p> <p>あんばい ええまち かわにし創生総合戦略につきましても、本市の策定に当たっての基本的な考え方に基つきまして、副題として、「市民一人ひとりの幸福の実現」を挙げております。</p> <p>それでは、総合戦略の骨子の内容であります。創生法の規定に基づき、今後5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめております。</p> <p>まず、基本目標及び目標に対する成果指標の設定であります。</p> <p>基本目標としましては、国の総合戦略で定められている基本目標を基本としながら、一つ目として、人口の移住・定住の促進の視点から「良好な住環境を維持・創出し、住み良さを実感できるまちをめざす」。</p> <p>二点目として、人口減少の抑制の視点から「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」。</p> <p>三点目として、まちの活性化における安定した地域づくりの視点から「地域のきずなを深め多世代交流を促進する」。</p> <p>四つ目として、地方における安定した雇用の創出の視点から「新たな雇用やまちの賑わいの創出」を掲げております。</p> <p>また、それぞれの基本目標ごとに、具体的な施策を実施した結果としてもたらされる成果を数値目標として定めております。</p> <p>次に、主な施策案ですが、基本目標ごとに、その実現に向けて取り組むべき具体的な施策の主なものを掲げております。</p> <p>一点目の基本目標に対しては、ふるさと団地の再生、歩いて暮らせるまちづくり、公共施設マネジメントの強化、魅力の創造・発信、安全安心のまちづくり。</p> <p>二点目の基本目標に対しては、結婚支援、出産支援、こども・子育て支援、教育環境の充実、女性が働きやすい環境づくり。</p>

発言者	発言内容等
	<p>三点目の基本目標に対しては、健康づくりの推進、自主的な地域づくり、居場所づくり。</p> <p>四点目の基本目標に対しては、就労支援の充実、新たな仕事と雇用の創出、産業の活性化を掲げております。</p> <p>最後に、主な重要業績評価指標、KPIであります。</p> <p>これは、それぞれの基本目標に対する具体的施策ごとに、個々の施策に対応してその実施した結果としてどのような状態をめざすのかを示す数値指標であります。KPI指標として考えられる主なものを記載しております。</p> <p>以上で、骨子案のご説明とさせていただきますが、この骨子案をベースとして委員のみなさまから具体的に取るべき施策等についてご意見をいただき、総合戦略の素案を作成していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまの説明について、ご意見を伺いたいと思います。</p> <p>ご意見はございませんでしょうか。</p>
委員	<p>私は川西生まれですが、私たちが子どもの時代は地域の関わりがとてもたくさんありました。当時、川西には小学校が10校ほどありましたが、高度経済成長期に人が増えることで学校が増え、団地も次々に建っていきました。しかし当時の友達は地元に残る者が少なく、同級生のほとんどが他市で就職しています。川西市は、通勤者にとっても単なる通過点になっているのではないかと感じます。阪急の駅ができ、大変便利になりましたが、それだけでは物足りないように感じます。余暇に楽しめる環境や医療体制、教育環境の充実など、住んで魅力のあるまちにすることが一番のキーポイントだと考えます。また、健康づくりについても、自然に親しめるPRが少ないように感じます。ハイキングコースひとつにしても、マップはあると思いますが、もっと市民が身近に感じられるような取組みをしてはどうかと思っています。ただ単に交通の通過点ではなく、住んだときに余暇やレジャーが楽しめるようなまちの魅力があれば良いと思いました。</p>
会長	<p>まちそのものの魅力について考えた時に、人が魅力を感じ住み続ける、安心安全の医療、あるいは教育、自然とのふれあいといったものなどが重要となるといったご意見でした。</p> <p>他に、ご意見はございませんか。</p>
委員	<p>骨子案に「川西しごと・サポートセンター」とありますが、こちらは平成24年4月からハローワークと川西市の合同で運営している施設です。現在年間1,000人の就職を目標に据えており、ここ3年は目標を達成しています。このうち約4割が川西市内、3割が他市に就職しています。川西市近郊(川西市、伊丹市、猪名川町等を含む)は、有効求人倍率0.6倍で、県下で一番低く、求職者に対し求人が少ない状況があります。市内に働く場所をつくることも、人口を増やす一つの方法ではないでしょうか。</p>
副会長	<p>ニュータウンの若い女性は非常に優秀な方が多いが、三田市などでは大阪まで離れており、働きに行けないという方がいます。川西は大阪まで近いので少し違うか</p>

発言者	発言内容等
	<p>もしもませんが、特に結婚してお子さんがいる女性は離れたところまで通勤することが難しく、能力や技術はあっても市内のパートなどで働いている方が割りといいます。ニュータウンには、大規模な消費地があるという強みがあります。若い母親が子育てをしながらできるような、小さな起業を支援することもあってよいのではないのでしょうか。子育て支援となると、他市町村と同じ施策となり、どこまで子どもの医療費の無料化を行うかなどで差別化するしかないですが、若い世代に住んで欲しいのであれば、出産後も働きやすい環境を支援するべきではないのでしょうか。高齢者の方に対しても、今までボランティアでやっていた活動をビジネス化するというのも考えていくべきではないのでしょうか。また、市北部は不便であることを逆手に取り、日本一の里山があることを打ち出し、川西市でしか実現できないライフスタイルを推し進めることができるのではないのでしょうか。</p>
会長	<p>里山生活など様々なライフスタイルを選択することができるのも川西市の強みとなっています。重点的に取り組むべきところも併せて考えなければなりません、それぞれのライフスタイルに合った多様なメニューを用意し、魅力を打ち出せば良いのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>流出する人をいかに減らすか、永住する人をどうするか、一時的に留まっている人をどうするかということを考えていかなければならないと思います。市の施策で親元へ子ども世帯が戻って来るというのをしており、ちょっとずつ戻りつつある。祭りを開催しても、子ども世帯が孫を連れて帰ってくるというように変わってきたと実感している。また、川西は大阪への利便も良いので、今後、永住する人を増やしていく必要があると考えている。そこで、3世代が安心して住める環境を整えていくことが重要ではないのでしょうか。ハード面だけでなく、自治会の加入率が悪い等の課題を克服し、地域でのつながりを感じられる気持ちを育てていく、ソフト面の取組が必要だと考えます。私が住んでいる北の地域では商業地はほとんどありません。また住宅に関しては、賃貸住宅はなく全て戸建て住宅なので、住民同士の意思疎通はしやすいですが、人との関わり合いはできるだけ避けたいという人が多いと感じますが、そこを変えていかなければ永住にはつながらないかと思っています。</p>
会長	<p>地域ならではのコミュニティのまとまりを創ることの良さを多くの人に知ってもらい、その良さで人を惹きつける方向性もよいと思います。地域自治組織をいかに運営するかということを今回の総合戦略において考えていくことも必要かもしれません。</p>
委員	<p>川西市はニュータウンを有する市として「ふるさと団地の再生」に取り組んでいますが、都会と田舎どちらも有することを強みとして、能勢町等さらに自然豊かな地域との広域連携も含めて、シティプロモーションに取り組むことができるのではないかと思います。市としてそのような方向性で取り組むのであれば、ぜひ参加したいと思っています。また、KPI(案)の「観光入込数の増加」とは、どのような取り組みを想定して設定しているのかお聞かせいただきたいです。</p>
事務局	<p>第5次総合計画に位置付けている数値ですが、具体的な設定根拠については現在持ち合わせておりません。</p>

発言者	発言内容等
委員	<p>交流者向けの体験施設を整備することは重要と考えています。田舎の生活の不便さを体験したいというニーズは、外国人において高くなっています。川西市北部は、大阪のチベットと言われるほど、四季の変化がはっきりとわかる場所です。能勢町等と連携して「不便な」体験を促進するような取組みができるのではないのでしょうか。不便ですがある程度都会に近いというのが川西市の売りだと思います。</p>
会長	<p>都会と田舎、不便さも売りにできるし、人の流れ、観光客の流れ、就業者の流れ、自然の大切さなどをどのように伝えていくのかが、課題として考えられるといったご意見でした。</p> <p>意見が大分、出てきましたが、他にご意見はございませんか。</p>
委員	<p>先ほど、人が減少して栄えるまちはないというお話があり、その通りだと思いました。しかし人が増えるからといって収入が増える保障もないので、あまり数字に囚われすぎない方が良く感じました。どこの地域でも同じような悩みを抱えている中で、大学がまちにあることが大きな強みとなります。学校が少ないのであれば、学校を誘致するか、あるいはそれに変わる何かを打ち出していかなければならないと思います。外国人は田舎が好きではあるが、唯一必要としているものが Wi-Fi の環境です。地方でも外国人が沢山訪れているところは、外国人自身が魅力を発信してくれます。外国人は SNS で感想をすぐに発信したいので、ネットワーク環境が充実している観光地を求めています。市として、交流人口と定住人口、どちらを増やすことを目標にしているのでしょうか。全体の方針として、どちらの方向をめざしているのかある程度見えてくれば、地域の方々からも具体的な案が出てくるのではないのでしょうか。また、地域を愛する地域プロデューサーは、シニア世代では数多いが、若者を育てる視点はあるのでしょうか。大学との連携ができるのであれば、ゼミの中で若者を地域プロデューサーとして育てていくことも考えられます。</p>
事務局	<p>市としては両方をめざしていくべきと考えています。高齢化の中でまちを維持することを考えると、子育て世代等の定住を促進することは重要ですが、一方で「多世代交流を促進」し、まちの活性化を図ることも重要と捉えています。</p>
本荘副市長	<p>人口の回復という意味では、定住人口を増やすことが第一義と考えます。しかし、自治体間で人口の取り合いをすることに意味はなく、交流人口を考える際は、他市との広域的な連携も視野に入れるべきだと考えています。</p>
会長	<p>定住人口ももちろん増やさなければなりませんが、事実上、国全体として、どうするか。一定の地域ごとで、人の取り合いをするのではなく、それぞれの自治体が存続していくためには、交流人口の増加なども含めて、検討していく必要があると思います。</p>
委員	<p>川西市に 36 年住んでおり、住みやすく子育てもしやすいまちであると思いますが、市のブランディング力が弱いと感じています。定住促進については昔から住んでいる人にとっては大迷惑になる場合があります。また交流人口が増え毎日 2,000 人くらいに来られたらそれも困るので、ひとつずつ別々に分解しながら考えていかなければならないと思います。2019 年の高速道路の開通に伴い、単に通過されるまち</p>

発言者	発言内容等
会長	<p>ではなく、流入してもらえらるまちにすることが課題になると思います。ソフトの部分で、民間団体でできることはあると考えますが、ハードの部分は市として考えていただきたいと思います。また、まちづくりに川西市の若者の意見を取り入れながら進めていただきたいと思います。団地再生については、空洞化が進んでいる現状に対して、良い取り組みをしていただきたいです。不動産会社の知り合いに聞くと、持ち主が東京に行ってしまう、売買ができないというケースもあると聞きました。これに対して、そこに新たに若者を流入させるなど、市でも何か取組めることがないでしょうか。また、市内に就労先が少ないことも課題であると思います。私の友人もほとんどが、大阪や神戸に働きに出ているのが現状です。</p> <p>また、本庄市のように、キャッチフレーズを作って、人口増加に努めている事例もあるので、川西市もプランニングをしていく必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>キーワードとして、里山などもそうですが、まち全体のプランニングを行い発信していくことで、交流人口を増やす、空家の流通を促進するなど、市の活性化に結び付けていく。また、若者の意見や地域のニーズを的確にとらえなければ、転出に歯止めをかけることができないといったご意見でした。</p> <p>また、これらの取り組みは行政のみが取り組むのではなく、地域なども一体となり、取り組んでいく必要があります。</p>
委員	<p>市内での就労について参考にできる事例として、他市においてテレワーカーの入居促進や、イノベーションの創出に向けた空き家活用などの事例があります。子育てのしやすさを打ち出した事例としては、シングルマザーが住みやすいまちづくりを進めている事例があります。エッジの効いた戦略にすることが重要ではないのでしょうか。2年前に市の若手職員がワークショップを通じて、市長に対し川西市のまちづくりに対する施策提案をおこないましたが、当時の案は市政に反映されているのでしょうか。</p>
本庄副市長	<p>空き家活用等の取組は進めているが、提案いただいた施策については、市政として厳しく判断しなければならないこともあり、実現できていない部分もあります。それについては魅力創造課が中心となって今後も継続的に取組んでいきたいと考えています。</p>
委員	<p>川西市は地域が田舎、田舎とまちの間、まちの暮らしができる、という三層に分かれており、地域毎にしごと創出や地域づくりの分野についてゾーニングをし、特色を出していくようなことも考えられますが、現状そのような計画は行っているのでしょうか。</p>
本庄副市長	<p>市として、昭和 50 年代より、小学校区を単位にそれぞれの地域の個性を生かした、地域づくりを推進しています。地域により自然環境や住環境などが異なっており、地域の個性を活かしていくために、今後一定の権限や財源を地域に移して、自立的な地域計画づくりを始めようとしています。</p>
会長	<p>地域それぞれにおいて、交流や定住をどう図っていくのかを考えることや、川西市内の多様な地域の特色をいかに出していくかということも、重要な視点であると思</p>

発言者	発言内容等
委員	<p>ます。</p> <p>KPI(案)について、評価基準が見えません。例えば、どの地域においてどの部分をどのくらい達成することにより、表記の数値を目標とするのか等、わかるように整理していただきたいです。次回にもう少し分かりやすく示していただきたいです。またスケジュールを見ると、次回はある程度素案が出来上がった状態で議論ができると期待しています。</p>
会長	<p>KPI 自体は、この計画の成果というのを具体的に測るために必要ですが、その基準があっても、どこを基本にしているのか明確にならないと、そもそも話しにならないというところがあります。ここは次回の会議で整理していただければと思います。</p>
事務局	<p>総合計画で位置づけている KPI の資料については、近々整理し郵送します。</p>
委員	<p>スケジュールを見ますと協議等が 2 回目にあって次に素案があり、3 回目に答申という形で 3 回目の会議である程度の方向性を想定するということですね。</p> <p>ここでいろんな意見を出して次回に練りに練って作る。そしてその次にだいたいこの案を固めていくのですか。</p>
会長	<p>本日ご意見いただいたものを反映させて、それからもちろんこの後も思いつかれた改善案については事務局にお伝えをいただいて、それを次回はまとめたかたちで一旦、素案というかたちでしっかり出していきたい。</p> <p>全体としては年内に形になるのかなと考えています。こういう会議をたくさん開いて大勢で議論を重ねていくというのが必要ですが、そういうかたちにはなかなかないところもあります。骨子案の内容について他になにかありますでしょうか。</p>
委員	<p>郵便局では、地域に密着した企業として、福祉型労働運動に取り組んでいます。しかし、地域やコミュニティが企業に対し何を求めているのかわからず、連携が取りにくいのが現状です。市がその橋渡しの役割を担うことができれば、地域の役に立ちたい組織を活用できると考えています。</p>
会長	<p>総合計画の検討でも議論に上がっていましたが、地域貢献への意欲ある人や組織を活用し、いかに地域を活性化させるかという視点は重要であり、総合戦略でも考えていくべきことと考えています。</p>
菅原副市長	<p>起業というとハードルが高いが、女性や後期高齢者が、地域のためになる仕事に週に何日、月に何日働くという考え方を推進していきたいと思っています。毎日空いていないお店がたくさんできるのも面白いのではないのでしょうか。</p>
会長	<p>いわゆる、ソーシャルビジネス、あるいはコミュニティビジネスですね。</p> <p>社会起業家のような新しい仕事づくり、自分起業という言い方がありますが、そういう組織、本当に必要な仕事を作るのも自分自身のちょっとした生業として考える、あるいは仕事とは別に地域貢献的にボランティアビジネスを地域のためにやる。いろんな働き方というのをすすめ、そんな機会もこれからのいろんな社会的経済的な制約</p>

発言者	発言内容等
委員	<p>が大きくなる中ではビジネスチャンスは大きいかもしれないというお話しでした。その他いかがでしょうか。</p> <p>銀行としては、産業の活性化が重要だと考えています。現状では市内における投資先(売り上げが10億円を超える会社)が少ないです。また、住宅ローンの借り入れ件数も少なく、ローンを組んでまで川西市内に住もうという方が少ないのではないのかと感じます。</p>
委員	<p>あれもこれもというよりも、何か1つに絞らないと難しいと思います。</p> <p>私は2年前に川西に来たのですが、川西に住んでいる方に川西市といえば何と聞いたら、多田神社・源氏まつり・きんたくん・もも・いちじくとたくさん出てきます。</p> <p>私はもともと池田、箕面、今は豊中という周りに住んでいるのですが。初めて聞いたことばかりでした。</p> <p>「あんばい ええまち」という理念はよいと思うが、特徴的な強みを発信できればよいと考えます。特にこれがすごいというものを打ち出した方がよいのではないかと感じました。</p>
会長	<p>エッジのたった戦略にしていくと意識することが必要かもしれません。</p> <p>それでは、次の「7その他」へ移りたいと思いますが、事務局のほうで何かありますか。</p>
事務局	<p>次回以降の開催日程を調整させていただきたいと思います。</p> <p>恐れ入りますが、お配りしております日程調整表に、ご記入をお願いいたします。</p> <p>なお、総勢20名の委員の皆様がおられますので、日程調整が難航することも想定されます。最大限避けるよう努力させていただきますが、皆様のご都合についてご記入いただくとありがたく存じます。</p> <p>第2回、第3回の開催日については、この場で事務局が集計し、日程を決定したいと思います。</p>
会長	<p>先程も触れられましたように、会議録については発言要旨を事務局でまとめてもらうこととし、各委員の発言については名前を伏せることといたします。また、会議録の承認については、先程協議いただいたとおり会長である私(新川)の承認で行うことといたしますので、よろしくをお願いいたします。</p>
事務局	<p>大変お待たせいたしました。</p> <p>ただ今、皆様の日程を事務局が集計したところ、第2回会議の開催は10月28日18時30分から、第3回会議の開催は11月18日18時30分からとさせていただきます。</p> <p>開催場所等の詳細につきましては、事務局より後日開催案内を送付させていただきます。</p> <p>ただいまの件について、ご質問等ございませんでしょうか。</p>
会長	<p>ないようでしたら、本日の議事は以上でございますので、一旦事務局にマイクをお返しいたします。</p>

発言者	発言内容等
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>皆様、どうもありがとうございました。</p> <p>それでは、本日の会議はこれで終了とさせていただきます。</p> <p>本日は誠にありがとうございました。</p> <p>お疲れさまでございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>